生活環境委員会 行政視察報告書

１．　日　時　令和５年５月16日（火）～18日（木）

２．　参加者　中野得雄（委員長）・家敷誠貴（副委員長）

高野早苗・成川正幸

３．　視察先及び視察事項

・大分県臼杵市

「臼杵石仏ねっとの取組みについて」

・福岡県行橋市

「学童保育運営の民間委託について」

・福岡県宗像市

「地域コミュニティでの学童保育所運営について」

黒部市議会

【大分県臼杵市】

【視察項目】　臼杵石仏ねっとの取組みについて
【日　　時】　令和５年５月 16 日（火）　午後２時 30 分～４時
【場　　所】　臼杵市役所
【応 対 者】　議長 梅田 徳男・議会事務局 主査 大井 智香子
保険健康課 課長 川辺 みさご
保険健康課 医療福祉政策グループ 統括課長代理 遠藤 征夫
保険健康課 医療福祉政策グループ 増中 洋二
【目　　的】　高齢化が進み、充実した医療・介護体制が求められるが、医療・介護人材が不足しており、地域医療・介護を守るための情報共有や連携の先進的な取り組みを学ぶ事を目的とする。

【臼杵市概要】※令和５年４月１日現在
・平成 17 年に臼杵市と野津町が合併
・大分県東南部に位置し、臼杵城を中心に多数の寺院と武家屋敷等の町並みが残っている
・人口　35,926 人
・65 歳以上高齢化率　41.85％
・面積　291.20 ㎢

【うすき石仏ねっとの目的】
患者様のプライバシー保護を厳重に図りながら、診療情報、介護情報の一部を、参加機関間を結ぶネットワークで共有し、診療・検査などから得られた多くのデータを元に治療法を検討し、わかりやすく説明を行い、質の高い安全な医療サービス、介護サービスの提供を可能にすることを目的としてします。皆様に「石仏カード」を提示していただくことで、様々な機関にあるデータを共有することができるようになります。「石仏カード」には、医療情報、介護情報は入っていません。「石仏カード」は情報を結びつける鍵ですので、「石仏カード」が提示されなければ、情報の共有はできません。

【質問、回答】
Q うすき石仏ねっと導入以前の状況について、どのような課題があったか？どのような目的で導入され、どの団体が中心となって立ち上げたのか？
A 高齢化が進み医療・介護を支える人材が不足しつつあることを危惧した臼杵市医師会が平成 15 年に市内の５つの医療機関において検査データを閲覧する実証実験から始めた。
現在の医師会立コスモス病院副委員長が事業の中心となった
Q うすき石仏ねっとは？
A 臼杵市の地域包括ケアの『連携』を図るツールの１つとして「うすき石仏ねっと」があり

ＩＣＴを活用し、 病院、診療所、歯科医院、調剤薬局、消防署、介護施設などの 参加事業所の間で検査結果、薬の情報、介護情報などを共有する 医療・介護情報連携ネットワークである。

Q 利用者情報の共有方法（石仏カード等）、情報共有の範囲、個人情報の取り扱いについて

A 情報共有方法は、参加施設がうすき石仏ねっとを閲覧する場合は、患者の石仏カード(交通系 IC カードと同じフェリカ方式)を使う、参加施設の読み取り機にかざすと、瞬時に本人の検査結果、服薬履歴などが時系列で表示される、緊急時は石仏カードの提示がなくても閲覧できる仕組みとなっている。

情報共有の範囲は、うすき石仏ねっと参加施設内で共有され、医師、歯科医師、薬剤師、保健師、看護師、医療事務、救急救命士、消防隊員、ケアマネージャー等の職種が利用するが、施設の種類、職種別に権限を設定し、閲覧できる範囲を定めている。閲覧できる情報は、電子カルテシステム、X 線システム、内視鏡システム等に保持されている情報、必要に応じて登録した情報など

個人情報の取扱いについてはうすき石仏ねっとに加入する際に、上記取り扱いを説明し、本人の同意を得ている。

Q臼杵市医師会立コスモス病院と各診療所や事業所との連携について、また、臼杵市はどのように関わっているのか？

A連携の活用例として、複数の医療機関を受診していた方の血液検査や処方薬のデータを元に低カリウム症の改善につながった事例や、消防署で救急車の出動と同時に病名などの確認をした際に、糖尿病の治療中で低血糖が疑われる事が分かり、事前にブドウ糖投与の準備を行い、迅速な初期対応ができた事例があった。

糖尿病専門医ではない医師も、患者の検査結果やコスモス病院の専門医の指導内容を確認することができるなど、コスモス病院と診療所の連携をしている。

臼杵市は平成 27 年度から「うすき石仏ねっと運営協議会」の理事として関わっており、今後の在り方等を検討する事務局会議等にも関わっている。

Q システムを運営している上での問題点や今後のサービス向上に向けた取り組みについて

A職種や事業者間において利用状況に差があることを問題点として捉えており、現場の声、民間企業の発想（経済産業省の事業「ガバメントピッチ」）も交えながら検討していくこととしている。また、サービス向上に対する取り組みとして、大分市内の医療機関とも連携をしている。

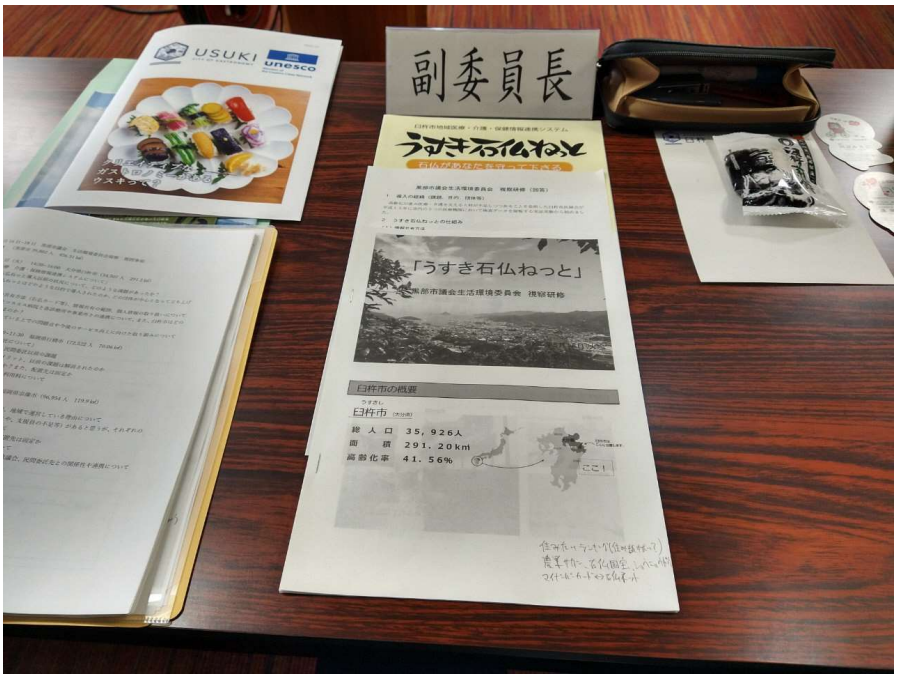
【所　　感】

石仏ねっとの同意者数は令和 5 年 4 月で 24,639 人、約 7 割の方がカードを持っている。また、医療機関以外にも調剤薬局、歯科医院、福祉施設、訪問看護ステーション、介護施設、消防署、市役所、大分県中部保健所、地域包括支援センター、市民健康管理センターなど、高い参加率や多様な施設が参加し、医師以外にも薬剤師が頻繁に利用することにより、糖尿

病の重症化率が低い事や、アレルギー情報の共有など、市民の命を守る事につながっていると考えられる。

医師、看護師、介護士不足等の課題がある中で、地域の医療、介護を守るためには、各機関の連携がますます重要になると考えられる。黒部には扇状地ネットがあるが、今回学んだ臼杵市の取り組みを黒部市、下新川地域の医療、介護を守るための参考にしたい。

【臼杵市視察の様子】



【福岡県行橋市】

【視察項目】　学童保育運営の民間委託について
【日　　時】　令和５年５月 17 日（水）　午前 10 時～11 時 30 分
【場　　所】　行橋市役所
【応 対 者】　議長 小原 義和・副議長 小見 祐治・議会事務局 局長 松尾 一樹
教育部 学校管理課 課長 井上 尚史
教育部 学校管理課 学務係 丸塚 大輔
【目　　的】　学童保育（放課後児童クラブ）の運営には様々な課題があり、課題解決には多様な運営方法を知る必要があり、民間委託での運営を学ぶ事を目的とする。

【行橋市概要】※令和５年４月現在
・昭和 30 年に行橋市に祓郷村の一部（東徳永・草場・袋迫）が編入
・福岡県の北東部に位置し、北九州市のベッドタウンとして発展
・人口　72,565 人
・65 歳以上高齢化率　30.13%
・面積　70.06 ㎢

【質問、回答】
Ｑ民間委託に至った経緯、民間委託以前の課題
Ａ行橋市では平成 12 年から学校の空き教室を活用し事業を開始、平成 31 年度に現在の体制となった。民間委託以前の課題として、支援員の確保や育成→募集や研修などに要する事務、保護者ニーズの多様化→学習支援や体験活動など、特別な支援が必要な児童の受け入れ増→運営により専門性を求められることなどがあった。
　また、人員が不足する際には、市の職員自らが現場に入って直接運営にあたることもあったため、民間事業者への運営委託の試験導入を決定し、プロポーザルにより事業者を選定、平成 30 年４月から２クラブで開始（試験導入）、全国での豊富な実績を評価し、シダックス大新東ヒューマンサービスへの委託を決定、令和３年度から 13 教室すべての運営を民間に委託することに（シダックス大新東ヒューマンサービス、明日葉、行橋むつみ会の３事業者に委託）
Ｑ民間委託のメリット、デメリット、以前の課題は解消されたのか
事業の効果
① 支援員の安定的な確保による運営の安定化→行政の負担軽減効果
② 保育サービス全体の質が向上→保護者満足度向上
③ 民間事業者の優れた教室・研修体制→支援員の専門的なスキル向上
④ 「地域住民との交流」や「公共施設の活用促進」といった地域に根ざしたイベントを開催→郷土への愛着を育てる学習も実施し郷土愛を育てられる

課題

① 待機児童の発生→児童数が多い地域への対応、夏休み期間の対応

② 事業者間の保育サービスの不均衡→児童クラブごとに提供サービスの質・量が違うのではないか

今後の方針

業務の委託先である社会福祉法人や民間事業者と密に連絡、連携を図り、利用児童や保護者にとって満足度の高い保育の実施と環境整備に取り組む

・待機児童ゼロを目指す取り組み

放課後質問教室事業の有効活用

支援単位の追加の検討（民間施設の活用も視野に）

夏休み期間への対策検討

・事業者間保育サービスの均一化、質の向上を目指す取り組み

行橋市児童クラブ運営協議会（仮称）を発足→定期的な情報共有、意見交換を実施

民間委託の一本化を検討→今年度予定している業者選定のプロポーザルに向けて検討

Q 学童支援員の採用先はどこか？また、配置先は固定か

A 支援員は民間で採用

Q 民間委託の費用、学童保育の利用料について

A 民間委託費用は、各クラブごとに金額が違うため、別紙参照、利用料金、入所料月額 5,000 円、おやつ代月額 2,000 円、損害保険料年額 800 円、延長料 1 回 100 円(上限 1,500 円)

【所　　感】

行橋市では、公設 13、民設 5、合計 18 のクラブがあり、1,082 名が利用している。(黒部市 568 名)6 か所が学校施設、12 か所が専用施設を使っている。(別紙) 平成 12 年に空き教室を活用してスタートしたが、人員不足等の課題があり、市の職員が現場に入って運営することもあったと聞いた、黒部市でも支援員の不足や市職員が対応する場合があり、近年は利用者のニーズも多様化してきている。

民間事業者は、豊富なノウハウがあり、多様化する利用者ニーズへの対応、人材の確保(育成)、地域の負担軽減等、児童クラブ運営の選択肢の一つとして、黒部市でも検証する必要があると考えられる。

【行橋市視察の様子】

ようこそ 福岡県 行橋市 へ
令和5年5月17日（水）
黒部市議会行政視察研修
～ 学童保育運営の民間委託について ～
教育・福祉
福岡県 行橋市
の取り組み
ここっちいいやん、
くらそう ゆ ゆくはし

【福岡県宗像市】

【視察項目】　地域コミュニティでの学童保育所運営について
【日　　時】　令和５年５月 17 日（水）　午後２時～４時
【場　　所】　宗像市役所、吉武地区コミュニティ・センター、吉武小学校学童保育所
【応 対 者】　議会事務局 局長兼議事調査課長 中野 晃浩
議会事務局 議事調査課 主任主事 福島 樹
子ども子育て部 子ども育成課 課長 許斐 知加
子ども子育て部 子ども育成課 子ども政策係 主幹兼係長 梶原 貴子
子ども子育て部 子ども育成課 子ども政策係 鹿島 友香
宗像市吉武地区コミュニティ運営協議会 事務局長 石松 豊幸
宗像市地域学校協働活動推進員 城山学園 学園運営協議会委員 高山 國敏
【目　　的】　学童保育（放課後児童クラブ）の運営には様々な課題があり、課題解決には多様な運営方法を知る必要があり、地域コミュニティでの運営を学ぶ事を目的とする。

【宗像市概要】※令和５年４月現在
・平成 17 年に宗像市と大島村が合併
・北九州市と福岡市からそれぞれ 30 キロメートルに位置する良好な立地の住宅都市
・人口　96,954 人
・65 歳以上高齢化率　30.13%
・面積　119.94 ㎢

【宗像市が進める地域コミュニティ】

コミュニティの推進

宗像市がすすめているコミュニティとは、住民が主体となって進めていくまちづくりです。

平成９年５月に「宗像市コミュニティ基本構想」を策定し、コミュニティを中心に、市民が集い、ふれあうまちづくりを目指しています。本市では、「小学校の通学区域の地域住民が共同体意識をもって本体的に形成された地域社会」と位置づけています。

「コミュニティ」とは、一般的に共同体または地域社会と訳され、宗像市では、吉武、赤間、赤間西、自由ヶ丘、河東、南郷、東郷、日の里、玄海、池野、岬、大島の 12 地区をコミュニティの範域としており、全 12 地区に運営協議会を設置しています。

コミュニティの目的

1. 相互扶助
   情報化・都市化の進展で、隣近所のつきあいが減り、「お互いに助け合っていく」というコミュニティの意識が低くなってきています。

そこで、市内を 12 コミュニティ地区に分割し（小学校区を基準)、地域全体で福祉や環境、教育などさまざまな問題に地域住民と行政と協働で取り組むことにより、希薄になりつつある「相互扶助」の意識の向上をはかることが目的です。

2. 地域分権

現在、市が行っている業務の中で、地域がおこなうことでより大きな効果が生まれるような業務は地域に移譲し、地域のことは地域住民らが決定し、事業の推移を図るとともに、地域住民の「自己責任」「自己決定」「自己実現」の考え方を促進し、地域と行政のパートナーシップでのまちづくりが「地域分権」の目的です。

コミュニティの歴史

昭和 50 年　コミュニティ施策の方向性について検討開始

平成 12 年　市内 3 つの地区でコミュニティ運営協議会が設立

（途中 2 度の合併を経て現在 12 地区）

平成 18 年　宗像市市民参画、協働およびコミュニティの活動の推進に関する条例の施行

【質問、回答】

Q民間委託をしている施設がある中で、地域で運営している理由について

A全 20 施設のうち、16 施設の指定管理者はシダックス大新東ヒューマンサービス、非公募の(地区コミュニティ)管理者として、吉武地区コミュニティ運営協議会(1 施設)、赤間地区コミュニティ運営協議会(3 施設)がある。

「地域の子どもは地域で守り育てる」という理念を持ち、地域の行事や人材を活用しながら実施していることで、地域の教育力向上に繋がっている事や、総合計画に、戦略的取組として掲げる「協働の推進」及び「都市ブランド(子育て世代に選ばれる都市の推進)」に資するため。

令和元年 6 月に両地区へ実施したアンケートでは、「子育て支援対策が実施され、目標が達成されている」や「子どもと交流することで、子どもを見守る大人が増加してきた。」などの回答があり、宗像市としても、両地区による学童保育所運営は適切に運営されており、高く評価している。

今後も学童保育所運営について、地区の意向に応じて個別に協議を行う

Q地域ごとに異なる課題（施設の大きさや、支援員の不足等）があると思うが、それぞれの課題や課題解決に向けた取り組みについて

A

課題

(民間委託に比べ)協議会役員の負担が増加

リスク管理や事業継続性を含めた学童保育事業への理解が必要

支援員の安定確保(夏休みの支援員確保)

協議会役員、運営管理責任者、指導員間での理解、活動方針などの意識の統一が重要

入所児童の増加に伴う学校の空き教室の利用調整に苦慮
課題解決に向けた取り組み
支援員募集のチラシ配布や地区の部会員などに紹介を依頼して支援員を確保
市の説明会で支援員募集をアナウンス
Q学童支援員の採用先はどこか？また、配置先は固定か
A支援員の採用は各指定管理者が行う、配置先は固定ではなく、各指定管理者が希望を聞きながら調整
Q民間委託、運営協議会への委託費用について
A民間事業者に比べ、コミュニティの運営の方が費用がかかる(別紙)
Q宗像市学童運営事務局、コミュニティ運営協議会、民間委託先との関係性や連携について
A指定管理者間の情報交換・意見交換の場を設定、課題の共有、管理運営の支援に取り組んでいる
市事務局に学童保育所連絡会(市からの連絡、各指定管理者からの連絡、協議　等)、学校と学童保育所の連絡会(連絡、相談窓口の確認　等)

【所　　感】
宗像市の学童保育(放課後児童クラブ)は昭和４７年度宗像町立赤間小学校での「留守家庭児童学級」から開始している。
行橋市同様にシダックス大新東ヒューマンサービスに委託している施設が多いなか、吉武地区では、吉武地区コミュニティ運営協議会が施設を運営。
宗像市の地区コミュニティに対する取り組みには、強い思いが感じられ、吉武地区コミュニティ運営協議会の取り組みは宗像市の考える地区コミュニティの理想に近いように思われる。
今回、吉武小学童保育所の様子を見学させていただいたが、子どもたちが明るくあいさつをし、のびのびとリラックスしている事、運営に関わる地域の方々が地域に誇りをもち、楽しみながら子どもたちに関わっている事がとても印象的だった。
「地域の子どもは地域で守り育てる」という理念が伝わる取り組みであり、子どもたちが地域の方々と関わる事により、地域に対する愛着を育てる事につながり、地区コミュニティでの運営の可能性を感じた。黒部市の放課後児童クラブを考える参考にしたい。

【宗像市視察の様子】